

【評価の内訳】

協働事業の評価	評価数
当該協働事業を実施したことで、具体的に市民サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものである。	4
ほぼ適切な協働事業として評価できるものである。	1
協働事業として、うまく機能しなかった。	2

【事業に関する意見】

- ・教育部教育相談室と対話カフェつむぎが不登校児童とその家族だけを対象として実施している事業としては重要なことだと思うが、広く市民を対象にしていないので、対象とする相手によりネーミングを変えたり内容を変えて事業をしたほうが良いのではないかと思います。
- ・参加者が自分と相手の考えを大切にすることにつながる大切な取り組みと感じました。
- ・不登校の子を持つ親御さんにしてみれば助かる方たちです。これからも大変なことがあるかもしれませんが、楽しいこともあると思います。続けてください。
- ・全体的に参加者が少ない。不登校の原因は様々あり解決策を見つけるのは大変です。当然個々の対策が違ってくる。難しいと思いますが、開催場所を固定し、回数を増やし、信頼関係を高めるのもひとつの方法だと思います。
- ・人数が少なくても、お話を聞いてあげると良いと思いました。
- ・現代、心を病んでいる子どもが多い社会なので、とても良い事業だと思います。開催人数2名に満たないため中止とあるが、1名でも話したい人がいるなら聞いてあげたほうが良いのではないかと思います。
- ・子どもたちに「対話の場」を作るという活動の目的は有意義だと思いますが、何をするのかわかりづらいこと、敷居が高そうな感じがあったのが人が集まらなかった原因ではないかと思います。一方、大人向けの「ファシリテーター講座」は外部講師を招いたり、目的もはっきりしていたのでよかったと思います。関心の高いテーマだと思うので、今後もぜひ続けてほしいと思います。